

# 医の学びとキャリア形成 I

科目責任者 小 嶋 英 史

学年・学期 1 学年・1, 2 学期

## I. 前文

本学医学部に入学した学生は医師国家試験に合格し、医師として働くことを目標としていることでしょう。これから医学を学ぶにあたって、現在の医学教育がどのような医師を求めて、どのような変遷を経て構築されてきたかを1年生の早期に理解することは、今後の自身の学修態度の醸成に非常に重要です。また、医師免許を取得した後にどのような道が拓かれているのか、つまり医師のキャリア形成についても視野を広げることはこれからの学修と目標の設定に有意義です。

本科目は、科目名である「医の学びとキャリア形成」を問題基盤型学習（problem based learning: PBL）により、学修します。

PBLとは少人数のグループがチューター（教員）陪席のもとに「自主的に学修」つまり「能動的に学修」を行います。

日進月歩の医学・医療技術を修得し、医療に活かすためには医師になってからも常に学び続ける「能動的学修能力」が必要になります。「能動的学修能力」は、課題の中から問題（自分は何がわかっていないのか、あるいは何を知ればいいのか）を自ら抽出できるか、そしてその問題から何を学ぶか、すなわち「問題抽出能力」、「自己学修能力」によって構成されます。そこで、PBLテュートリアル教育は、課題より問題を抽出し、その問題を手がかりに学修を進めていくことで「能動的学修能力」を培うこと、すなわち“課題内容を学ぶ”だけではなく、“学び方の修得”も目的とします。また、少人数グループでの討議により、自己学修の成果をわかりやすく伝える「プレゼンテーション能力」の向上、さらには協調性・奉仕の精神といった「医師に必要とされる基本的態度」の修得も目指します。

本科目ではグループ討議の成果を最後にまとめて発表します。

## II. 担当教員

（運営担当）

准教授 小 嶋 英 史 教育開発・国際交流センター

学内准教授 奥 田 竜 也 基盤教育部門（化学）

講 師 矢 澤 華 子 病理学

学内講師 布 矢 純 一 微生物学

（チューター）

未 定

## III. 一般学習目標

・「医の学びとキャリア形成」に関する課題から抽出された問題についてグループ討議を通して、正しい理解を身につける。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 現在の医学教育の成り立ちと、その意義を説明できる。
- 2) グループ討議でグループの一員としての責務を果たせる。
- 3) グループ討議で学んだことを礎に自身のキャリア形成について考えをまとめることができる。

## V. 授業計画及び方法 \*（ ）内はアクティブラーニングの番号と種類

- （1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）  
2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション  
6：その他 空欄：該当なし）

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	5	18	月	1	オリエンテーション	小 嶋 英 史	
2		18	月	2	グループ討議	各テューター	3
3		18	月	3	グループ討議	各テューター	3
4		25	月	1	グループ討議	各テューター	3.5
5		25	月	2	グループ討議	各テューター	3.5
6	6	1	月	1	グループ討議	各テューター	3.5
7		1	月	2	グループ討議	各テューター	3.5
8		8	月	1	グループ討議	各テューター	3.5
9		8	月	2	グループ討議	各テューター	3.5
10		15	月	1	グループ討議	各テューター	3.5
11		15	月	2	グループ討議	各テューター	3.5
12	7	6	月	1	グループ討議	各テューター	3.5
13		6	月	2	グループ討議	各テューター	3.5
14		13	月	1	グループ発表	各テューター	2.5
15		13	月	2	グループ発表	各テューター	2.5
16		13	月	3	グループ発表	各テューター	2.5

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績評価する。（ ）内は評価の割合。

グループ討議・自己学修（60%），個人レポート（20%），グループ発表（含準備）（20%）

詳細は「学習の手引き」（後日配布）に記載

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

グループ討議で抽出された問題に対して，最適の資料を各自で見出すこと。

#### VIII. 質問への対応方法

各担当テューター，または科目責任者に直接，あるいはメールで連絡すること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回のグループ討議・発表会でチューターから毎回評価表あるいは口頭によりなされる。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（事後学習含む）（120分以上）：グループ討議で抽出された問題に取り組み、次回の発表資料を作成する。

XII. コアカリ記号・番号

PR-02-02-01, PR-02-03-02, LL-01-01-01, LL-01-01-02, LL-01-02-01, LL-02-01-01, LL-02-01-02, RE-04-01-02, RE-04-01-03